所属学科：看護学科　尾﨑　雅子

【研究テーマ】

1 看護基礎教育における学生の看護に対する情意領域の変化

2 看護者のあり方について

3 看護学科リカレント教育の実施に向けた検討

【研究概要】

1 学生の看護における情意領域(意欲・関心・興味など)が技術教育や臨地実習においてどのように変化していくか。何が影響しているのかなどを、学生のレポートやインタビューから分析する。

2 患者と看護者(自分)という二者関係において、分析的な二元論に基づく関係ではない一元論的な関係性について、東洋的な思想を基に考える。

3 本学看護学科の地域貢献の一環として、卒業生や地域の看護職へのリカレント教育実施に向けて検討する。

所属学科：看護学科　岩越　美恵

【研究テーマ】

1．発達障害児が自分の特性をポジティブに捉えるための診療実践研究
2.医療系教育系学生の障害児者に対する心のバリアフリー化をめざす授業の研究

【研究概要】

1.乳幼児期から発達障害(疑いを含む)児の療育を行っているが、最初は母親中心に診療を展開するが、小学校高学年より、次第に本人中心の診療に切り替えていく。本人が自分のことに疑問を感じ始めるのを機に、本人へのポジティブな告知とフォローを進め 18 歳で成人の精神科に繋ぐまでに、本人が前向きに自分を捉え、その後困難時に適切に相談できる力をつける。症例 40 例集めて報告する。

2.本学で学ぶ学生達は中学校以降、ほとんどが障害のある児と接することが無いことがわかった。障害児学の授業では、たとえ丁寧に各種障害について座学で教えても、障がい児者への心のバリア―は名起ることがわかった。障害者、障害児の家族らをゲストスピーカーとして授業に招くことからさらに進めて障害者の日常の中への交わりを授業の一環として取り入れ、学生の意識の変化を評価する。

所属学科：看護学科　庄司　靖枝

【研究テーマ】

1.小児看護学におけるユニフィケーションの取り組み
1)卒業生参加を取り入れた小児看護学演習の意義(2018 年)
2)演習に指導者として参加する卒業生にとっての意義(2019 年)

2. 附属幼稚園児の協力を取り入れた小児看護学演習の効果

【研究概要】

1.臨床と大学のユニフィケーションは、看護学生の教育や臨床看護に大きな貢献をもたらすと考えられているが、附属病院を持たない大学が完全な形で取り入れることは難しい。
本大学では、実習病院で経験を積む卒業生の協力を得てユニフィケーションを目指した演習を一昨年より行っている。昨年この演習に関して学生に質問紙調査を行った結果、臨床看護をイメージし実習への動機付けになり意義を見出せた。
また、協力を得る卒業生にとってもどのような影響があるのか面接調査を行った結果、後輩に対しては親密性を感じ、看護観や倫理観を進化させる機会になったり、指導者として 3 観の醸成する機会となっていた。以上の研究結果をまとめる。

2.小児看護学実習フィールドの確保には困難を伴い、病院だけではなく、クリニックや療育施設、保育園、幼稚園等の教育施設にも拡大している。加えて看護学生の育ってきた背景として、核家族化、少子化の影響を受け、子どもと触れ合う機会は少ない。患児と接することに困難を伴う学生に対して、本大学附属幼稚園の園児の協力を得て健康な子どもの身長・体重測定やバイタルサインズの測定を行う演習を行った。この演習が学生の小児看護の学びにどのような影響をもたらし、病棟実習での患児の関わりやバイタルサインズの測定にどのような効果をもたらすのかを明らかにする。

所属学科：看護学科　十九百　君子

【研究テーマ】

看護学生の学びにおける経験の意義と臨地実習の役割

【研究概要】

看護基礎教育において看護学生に臨地実習が与える影響は大きい。そこで、看護学生の学びにおける経験の意義と臨地実習の役割を明らかにすることを目的に本研究に取り組んだ。本研究は研究者所属機関倫理審査会で承認をえて、看護学科学生 3 年生 5 名を対象に半構成的面接を実施した。本研究結果から、以下の 4 点が明らかになった。1.講義・ 演習・ 臨地実習が繋がることで学生の学ぶことに対する楽しさが高まる。2.臨地実習での自己の 無力感は学生自身が自己をみつめ生き方を確立する過程を踏まえ、実習の満足感を上昇させる。さらに、この経験を通して学生自身が自己の成長を実感できることに繋がっていた。3.学生は、臨地の状況により生じる出来事に自らの対応力を引き出しながら学んでいた。4.学生は、患者の変化から自己の援助を振り返り、この振り返りを通して患者との関係が経験として学生の心の中に深く残っていた。真の意味で学ぶとは、経験のなかで学生自身が自分の思いや考えに気づきながら自分を通して学ぶことである。学生の学びにおける経験の意義は、自ら学ぶことの意義や意欲を引き出し、知識を意味づけし価値づけ、自己の看護観や自己の信頼感を 強くする。また、臨地実習は対象者とのかかわりを通して、学生自身が自己を振り返 りながら看護師としての自己を模索し、自己の看護観を形成する役割をもっているこ とが明らかになった。

所属学科：看護学科　中田　康夫

【研究テーマ】

1.高等教育における新たな教授-学修法の開発
2.高等教育の質保証に関する研究
3.教育評価に関する研究
4.Competency-Based Education(CBE)に関する研究
5.教職協働に関する研究
6.高齢者の QOL 向上・健康寿命の延伸に関する研究

【研究概要】

1・2・3・4.ユニバーサル化したといわれる高等教育における大学教育の質向上を目指して、社会の要請に応じた人材育成のための新たな教授-学修法の開発、その評価法、ならびに Competency-Based Education(CBE)に関する研究を進めている。
5.教職協働を促進するための要因・方法論の検討を進めている。
6.特に、健康寿命の延伸のための介護予防教室のあり方について、アクションリサーチを進めている。

所属学科：看護学科　魚崎　須美

【研究テーマ】

1 ナイチンゲール文献にみる公衆衛生看護思想の特徴

2 イギリスの地域看護黎明期におけるナイチンゲールの功績

【研究概要】

1 膨大な著作を書き遺したフロレンス・ナイチンゲール(1820-1910)は、その著作群において、いくつかの明確な概念を書籍で著している。『看護覚え書』『病院覚え書』『救貧覚え書』『産院覚え書・序説』などがそれである。しかし、ナイチンゲールが築いた“地域看護”や“公衆衛生看護”という実践形態は、今日につながるきわめて重要なテーマであるが、彼女はこれを一冊の書籍によって著すことはなかった。本研究では、ナイチンゲールが書き遺した公衆衛生看護に関連の深い 3 文献を手掛かりにテキストマイニングの分析手法を用いて、ナイチンゲールが提起した“地域看護”や“公衆衛生看護”について、彼女の公衆衛生看護思想の特徴を明らかにするものである。

2 ナイチンゲール研究者ルーシー・セイマーは、著書『看護の歴史』の中で「尼僧ではない一般職業看護婦による組織化された訪問看護の歴史はどうしても 1859 年以前にはさかのぼれないようである。この年イギリスのリヴァプールでウィリアム=ラスボーンがそれを開始した」と記している。 ウィリアム=ラスボーンが開始したこの訪問看護事業が成功に至った背景には、ナイチンゲールの強力な支援があった。貴重な原文史料を基に、イギリスの地域看護黎明期におけるウイリアム=ラスボーンとナイチンゲールの協力過程、ナイチンゲールの功績を明らかにする。

所属学科：看護学科　島内　敦子

【研究テーマ】

1.地域における祖父母力と子育て世代の関係構築について

2.母性看護学におけるシュミレーション教育の効果

【研究概要】

所属学科：看護学科　立垣　祐子

【研究テーマ】

災害における精神障害者の適応に関する研究

【研究概要】

災害発生時における精神障害者のもつ適応力に焦点をあてた研究を行っている.

所属学科：看護学科　阿児　馨

【研究テーマ】

1　「歯科衛生学生と看護学生の合同演習による専門職連携教育の効果」 (共同)
2　「療養支援実習 II におけるルーブリック評価基準の妥当性の検討(共同)
3　「看護師の職務満足に関する研究」(共同)
4　「外国人技能実習生に関する研究」

【研究概要】

1　2020 年度歯科衛生学会口演発表(5 月)。研究目的は、歯科衛生学生と看護学生の合同演習による専門職連携教育の効果を検討する。対象は A 大学の 2017 年度~2019 年度の歯科衛生学生 3 年次生 213 名,看護学生 2 年次生 256 名.分析方法:自由記述した内容について類似するものをコード化,カテゴリー化した.学生はこの演習を通して,職種が異なっても技術が目的や根拠を持ち患者の安全性や安楽性を常に考えていることや配慮については共通性があると感じとることが出来ていた.また職種間の連携についても相互に補い合うことが重要と捉え,情報の共有や職種の立場や責任についても考える機会となった。

2　2019 年度テーマ別研究。研究の目的は、ルーブリック評価の利点から療養支援実習 II の評価に導入し、作成した評価基準の妥当性を検討することである。
　研究方法は、事例研究である。2019 年度療養支援実習 II 履修生の内、受け持ち患者が 1 名で、実習中欠席のなかった学生の評価から無作為に抽出した 8 事例の内、研究協力に同意を得た学生の成績評価について、実習担当教員が評価の根拠とした要点と、設定した評価基準との対応を検討する。

3　日本医療マネージメント学会に論文投稿中

4　健康相談などの長田区の地域活動を行っている。実施日は、地域住民(外国人含む)の結核予防対策として、長田区健康福祉課の胸部 X 線間接撮影の検診日であり、目的は、結核予防の検診に併設する国際健康相談を実施し、実態を把握するものであった。コロナ禍で活動は自粛中であるが今後も方法を考えて活動していく予定。他に外国人技能実習生の健康講座に関わり活動している。

所属学科：看護学科　伊東　美智子

【研究テーマ】

1、社会人経験看護学生

2、産後ケア事業関連

3、シミュレーション教育

【研究概要】

1、異業種での就業を経験した後に看護師に転職する人が一定数存在する中、社会人経験学生特有の学びの難しさを指摘する声が少なくない。何が難しく、何が彼らの強みとして活かせるのか、インタビュー結果を文化心理学的視座で分析・考察中。特に、過去の経験の活用と、看護職特有の文化の関係にも注目している。

2、産後ケア事業の中でもデイケアサービスにおいて、大学教員かつ助産師である者が何が地域に還元できるのかを模索している。

3、母性看護学教育全般に、上級生から下級生に向かって教える「屋根瓦敷教育法」を取り入れてから、既に 5 年目を迎えている。 次年度は、これに最先端のシミュレーター人形が導入されることが決定している。母性看護学における、リアルとシミュレーションの効果的な連結について探求したい。

所属学科：看護学科　野田部　恵

【研究テーマ】

1.看護学科の学生における組織市民行動尺度の研究

2.看護師の自律性促進のための看護師長のリーダーシップスキルの研究

3.独居高齢者のがんサバイバーのセルフケア支援に関する研究

【研究概要】

1.組織市民行動とは、「組織に所属する人が報酬などの見返りを求めずに、組織全体の効率を促進するために自発的に他者を支援する行動」のことを言う。この行動が学生の間から身に付くことができるような教育方法についての研究を検討している。

2.看護師の自律性促進に関するリーダーシップの尺度開発に向けた研究を計画している。

3.兵庫県に住む独居高齢者に焦点を当てたセルケア支援を検討中。

所属学科：看護学科　原　　希代

【研究テーマ】

1 在宅医療的ケア児とその家族における地域での集いにおける効果

2 医療的ケア児のきょうだいにおける行動特性

3ICF の概念を使用した在宅看護学の教育効果

【研究概要】

1.　在宅医療的ケア児とその家族における地域での集いにおける効果

子育て支援拠点において、医療的ケア児とその家族の集いを 1 カ月に一度実施している在宅にて医療的ケアを要する児を育児･介護している保護者は､在宅での介護･ケア､在宅外での療育･リハビリテーションなどでかなりの時間を費やされている｡そのため､保護者は､日々の生活に追われて､医療者に相談するに至らない些細な心配事や不安なことなどを抱えているにもかかわらず吐露できないでいる｡それらの心配事や不安を解消するために､同様の環境にある家族と医療専門職が集う会を開始し､効果をはかっている｡

2.　医療的ケア児のきょうだい支援

障がい児のきょうだいにおける生育環境は、障がい児のケアや介護があって当然である｡きょうだいは、その様な生育環境から、障がい児に対する肯定的な経験や否定的な経験するといわれている｡それらの経験の中で、きょうだいが、障がい児のきょうだいとしての存在価値ではなく、1 人の人間としての存在価値を見出せた時に、家族機能がうまくいく要因となり得るとの報告がある｡このきょうだいの存在価値を肯定的に認める要因とそれらの支援を研究している｡

3. ICF の概念を使用した在宅看護学の教育効果

WHO が提唱する ICF:生活機能分類を用いて、在宅領域における看護展開を授業・臨地実習を行っている｡それらの生活機能を看る視点をもって実施する、看護展開における教育効果を明らかにする｡

所属学科：看護学科　中村　由果理

【研究テーマ】

看護学実習教育に関する研究

1 看護学実習における看護学生の主体性の発揮

2 コロナ禍における看護学実習での学生のまなび

3 3A 大学看護学科卒業生のリカレント教育に関するニーズ調査

【研究概要】

1 看護学生の主体性の発揮における教育方法について明らかにしていく
2 コロナ禍における遠隔授業支援システム・模擬患者を活用した課題別実習での学生の学びを明らかにしていく。
3 本学看護学科卒業生の皆様の卒業後の動向とリカレント教育に対するニーズを明らかにしていく

所属学科：看護学科　江口　実希

【研究テーマ】

1 反すう

2 マインドフルネス(認知行動療法)を用いた健康支援

【研究概要】

1,2
反すうとは、受動的に反復・持続する思考を指す。反すうにより、ストレスの増加や心身の健康の悪化が生じるが、その対処方法は確立していない。
(反すうは特に抑うつを有する人に生じやすく、症状の悪化や生きにくさに直結している。)
反すうは、制御困難なものであるが、反すうとの付き合い方を整えることにより、その悪影響を軽減しうることが考えられる。
研究テーマとして、反すうとの付き合い方としての 1 つの提案としてマインドフルネス(認知行動療法)を用いた方法について検討している。